茶

寒害対策を徹底しましょう

茶指導販売課　菊川　響

寒害の影響を受けやすい茶園や幼木園などでは、気象予報や地域特性、立地条件から判断して対策を行う必要があります。適切な処理を行うには、寒害を受けやすい場所を把握することが大切です。

茶の器官別の耐寒性は、成葉＝枝＞芽＞幹＞根の順に高く、枝条末端の葉から始まり、幹の下方に伝わるという特性があります。特に細根は耐寒性が高まりにくいため、早めの対策を行ってください。

被害を受けやすい茶園

①再萌芽した茶園

秋整枝作業が早いと、再萌芽したみる芽が冷たい空気に当たるため、被害を受けやすくなります。

②窪地や低地茶園

冷たい空気は重く、低い場所に停滞しやすいため被害を受けやすくなります。

③標高が高い茶園

標高が１００ｍ上昇すると、気温は約0.6℃下がるといわれており、山間地などでは注意が必要です。

④樹勢の弱い茶園

病害虫の被害を受けた茶園や幼木園などは注意が必要です。

有機物施用による事前対策

敷き草を施用して寒害対策を行うとともに、有機資材の供給を行いましょう。敷き草には地温調節や水分保持効果があるだけでなく、畝間の雑草生育抑制、傾斜地の土壌や肥料成分の流亡防止にもなるため、積極的に施用してください。

※過湿になりやすい茶園や水はけの悪い茶園では、寒害の原因になることがあるため、薄く敷く必要があります。敷き草とわらの特徴を知り、施用する際の参考にしてみてはいかがでしょうか。

	敷き草	わら
保湿性	低い	高い
分　解	遅い	早い
通気性 透水性	高い	低い